

和光の緑と湧き水だより 会報 Verda 239号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 白子大坂ふれあいの森の会（会長堀文雄）
会報発行 2025年12月号 作成 湧き水の会代表理事 高橋絹世（048-462-9912）
身近な自然を 知り 守り 伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>



2025年10月18日 緑と湧き水フォーラム in 和光 特集号

白子コミセンを会場に総理大臣賞受賞記念 “緑と湧き水フォーラム in 和光”が開かれました。大勢の方がフォーラムに興味を持って下さり、熱心に聞いていただき、当会員も心をうたれました。ご参加下さった方々、お手伝いしていただいた会員に感謝申し上げます。

前半は、「歩いて知ろう観察会」を実施。白子湧水群の富澤湧水と大坂ふれあいの森を巡り、終点は熊野神社の境内となりました。コミセン前に集まって2班に分かれて、1班は富澤から大坂へ、2班は大坂から富澤へ出発です。「以前から湧き水が見たいと思っていたので、参加して良かったです。」と楽しんでくださり、会員もほっと安心。



富澤では湧き水がわき出す仕組み、礫層と粘土層を見学、粘土層がはっきり見えました。礫層には草や木の根が入り混じっています。流れ出す水の筋が何本も見えます。これが和光の湧水の仕組みです。流れる水は冷たく感じられました。次は、石垣湧水道、石垣の中を湧水が通って水道として利用され、2000年まで炊事場として利用していた跡を見学。この石垣には水漏れの穴が徐々に大きくなってきていて、この日のために会員で水漏れを止める修理をしました。幸い水漏れが止まり、石垣湧水道を見学出来ました。湧き水を配り、利用するシステムの維持が今後大変かもしれません。次に大坂ふれあいの森は大坂通りの途中にある緑の森。階段を下ると広場があります。すり鉢状をした地形で、大きなムクノキやイヌシデで囲まれています。見渡すとたくさんの金物で斜面が抑えられています。今年3月に工事が行われ、斜面の草や低木が刈り取られた後の姿です。春になればカタクリやイチリンソウなど貴重な春植物が見られるでしょうか。そんな中を見学しました。小さな井戸があり、中をのぞくと地下の水面が見えます。地下水です。さらに森の中を回ると、湧き水の流れが巡っています。最後に熊野神社では、かつて川越街道の白子宿でにぎわったことなど、皆熱心に聞き入っていました。



後半はコミセン3階の広い視聴覚室に集合し講演会が行なわれました。参加者は、総勢70名

柴崎和光市長、公園みどり課課長田中様がお出で下さいました。まずは柴崎市長のごあいさつをしていただきました。

次に「総理大臣賞受賞」の経緯と式典について報告しました。日本自然保護協会の福田真由子氏による講演「全国のモニタリング調査から」が行われました。里山でよく目にしているはずの「スズメ」がかなり減少してきているこ



と。電線に雀が列をなした昔の風景はなくなりました。全国から収集したデータから、セグロセキレイの減少、里山が少なくなり野鳥も減少していることが明らかに。外来種のアライグマが増え続けている、和光のような都市部にも棲み着いているようです。福田氏の後半はモニタリングが始まる基礎となつた和光市の環境調査について。湧き水の会は、自然保護協会の指導の下に富澤湧水や大坂ふれあいの森、熊野神社、市内全域の自然環境調査を1999年から3年間実施しました。この結果を踏まえて、経験を活かし保全活動を進める会へと発展させました。調査で得られた生態系の大切さを、観察会を通して多くの方々に伝える活動もしてきました。それから20年、今の湧き水の会の存在を評価していただきました。今、環境省では「自然共生サイト」という枠組みが出来、モニタリングをしながら自然を残す方向性が出てきて、当会も参加手続きに着手しています。福田氏の講演は将来につながる貴重なお話しでした。

休憩に入りほっとした時間が得られ、会で取り掛かっている「ヒロハアマナの物語」の紹介をすることになり、読み聞かせが始まりました。和光の新倉で見つかったヒロハアマナ群落が区画整理事業で失われる正にその時、救出し移植したことを題材にした絵本です。絵本としては第2作目で、活動の今を紹介しました。

休憩後の後半は練馬区立牧野記念庭園学芸員の田中純子氏の講演です。牧野博士の業績と研究を進める意欲など、詳しいお話、ヒロハアマナに関する文献、資料を力強く発表され、牧野博士についての研究、取組の熱意が伝わってきました。当会でも今後取り上げていく「ヒロハアマナ」の大切さを感じられました。これから遺伝子レベルの研究を進める後押しをしていただけたと感じました。時間がせまりましたが、当会の活動「身近な自然を知り、守り、活かす活動」の概要や、武蔵野台地末端部に位置する湧水の多い和光市の自然の特徴を高橋が紹介しました。



大坂ふれあいの森について堀氏が、また高柴氏が市の北側にある新倉ふれあいの森の活動について紹介しました。

質疑では、参加者皆さんから



次々質問があり活発な意見交換ができました。

会場には受賞の楯や賞状、頂いたお花、縁起の良い高崎だるまなどを展示しました。

参加者の方々熱心に聴講下さり、何よりも好天に恵まれ有意義な会を進めることができました。会の進行係、受付係や案内など会員総出でしたが楽しい記念となつたことと思います。

秋の保全活動の様子

富澤湧水

10月の気候が過ごしやすい中、小雨でしたが、水路周辺の草取りや流れの幅を広げたり、箒刈りなど実施。石垣湧水道上部の樹木の枝を切り、ツタを取り除き、全体が見えるように作業しました。フォーラムにご参加下さる皆さんに見ていただく大事な所です。

石垣の水漏れの修理では、プラスチックの袋を活用し、流入する水を集め、流出するほうにも穴をあけて流す、全く新しい方法です。さすが若者のアイデアが役立ちました。



新倉ふれあいの森

2025年の新倉の森の様子は以前と比べて大きく変わりました。コナラ、クヌギのナラ枯れの木を伐採し、その後イヌシデも幹が傾き伐採が行われました。森全体は明るくなりました。バス通りの道路側の樹木もかなり減らされ、見通しは良くなりました。竹林は健在で、日ごろの手入れが進んでいます。森全体に日差しが入り、明るい緑の森と竹林です。夏の間は常に草刈りと竹の間引きが行われます。4月に行われる「タケノコ掘り」の準備として年間の竹林の手入れが大変な作業です。しかし近隣の方々や、多くの子ども達が楽しみにしており、沢山の親子ずれが集まって掘り出すタケノコは圧巻です。業者によるコナラの伐採皆さん4月半ばには一度参加してみて下さい。



大坂ふれあいの森

斜面全面に土留め用のパネルがはられ、森の生態系は一変しました。大坂の森の下部には湧き水が流れる小さな水路が作られていて、緑の森が何とか維持されています。高木は、ムクノキが優先し、枝が広がって夏は暗いですが、落ち葉が落ちる季節には日差しが入り明るくなります。この季節を待って成長する春植物のカタクリやイチリンソウは、元気な姿を見せてくれるでしょうか。富澤湧水と大坂ふれあいの森が連携して緑と湧き水の生態系が保たれているのは大切なことです。



フォーラムにて（歩いて知ろう観察会）



2025年11月～2026年3月湧き水の会活動スケジュール

予定	全体会	富澤湧水	新倉ふれあいの森	大坂ふれあいの森
11月	11月29日(第5(土)) バス研修会 千葉県：海ほたる経由 養老渓谷 11月22日2時～3時 和光樹林公園ドングリの森づくり協力	8日（土曜日） 水辺整備落ち葉掃き 未来大学フィールドワークから現地見学と体験予定 (たまサポより依頼)	15日 9時～11時半 雑木林、竹林の整備	19日 水路整備 道路側落ち葉掃き
12月	サイサン環境保全基金申請準備	13日（土曜日） 落ち葉掃き 水辺の整備	20日（第3土） 9時～11時半 竹林、斜面林整備	17日(第3水) 落ち葉掃き 水路整備
2026年1月		11日（日曜日） 新年の活動初め ヒロハアマナの観察など	17日（第3土） 同上	21日(第3水) 同上
2月	サイサン環境保全基金申請締め切り 2月13日	14日水辺の整備と森の状況観察	21日 竹林見回りと整備	18日 春植物のための保全活動
3月	15日又は20日 ヒロハアマナの観察会 (生育状況による)	15日（日） ヒロハアマナの生育状況により観察会又は保全活動	21日 タケノコ掘り準備	18日 春植物観察と保全 水辺整備